

第4回鳴門市地域福祉計画審議会  
議事録

日時：令和5年3月15日（水） 13：30～14：30

場所：うずしお会館2階 第2会議室

出席者：委員13名

白山委員、藤村委員、益岡委員、市橋委員、尾形委員、佐藤委員、前田委員、  
山田委員、矢野委員、小川委員、川端委員、玉関委員、三宅委員

事務局：6名 社会福祉課 他

傍聴者：0名

■会議内容

- 1 開会
- 2 議事録署名委員指名
- 3 議事  
パブリックコメント手続きに係る意見募集の結果について  
第2期鳴門市地域福祉計画最終案について  
第2期鳴門市地域福祉計画策定に係る答申案について
- 4 その他
- 5 閉会

議事1 パブリックコメント手続きに係る意見募集の結果について

(事務局)

意見募集の結果公表案説明

(委員長)

地域福祉計画は、策定が目的ではなく、計画を推進していくことが目的。

推進を図る方法は、PDCAサイクルを回すこと。

今後、計画の推進のモニタリングを何人かの委員にお願いし、計画の進捗をチェックしながら推進を図りたい。

議事2 第2期鳴門市地域福祉計画最終案について

(事務局)

計画の最終案について概要版含め説明

(委員長)

最終案については素案の段階から、ほぼ変更はないとのこと。  
語句等軽微な修正については委員長に一任いただき、事務局と最終的な調整を行う。何か気づいた点があれば、申しつけていただきたい。

### 議事3 第2期鳴門市地域福祉計画策定に係る答申案について

(事務局)

計画策定に係る答申案について説明

(委員長)

本審議会を代表して、別添答申案のとおり、3月20日に市長へ答申を行います。

その他

(委員長)

委員の皆様は、各種団体、関係機関での活動の中、お集まりいただき、計画の諮問から答申まで1年間ご協力いただいた。それぞれの委員の方にご意見を伺いたい。

(委員)

地域福祉計画の推進は、住民が主体であるが、住民だけでは難しい部分もある。  
審議会や行政の助言・指導が必要。加えて、行政にはスピード感を持って進めていただきたい。

(委員)

地域のために何ができるかを考えさせていただいた。先日、介護サポーター養成講座に参加させていただき、大変有意義であった。もっと若い人たちにも参加して頂ければよいと思った。また、地域活動にも若い人たちが参加できるような取組ができるのではないかと、地域で横のつながりができるような取組を進めたい。

(委員)

サロン活動をする中で、「誰一人取り残すことのない」という言葉を意識している。  
サロンに通ってくる高齢者は決まった人が多く、一步を踏み出せない人が地域には多くいるのだろうと感じている。お互いで助け合うというところまでいけない気がする。  
小さい範囲の地域から話し合うことが大切だと感じている。

(委員)

子どものためのまちづくり活動を行っているが、広い視野で、様々な立場の方とより良い生活を送っていくために考える機会を頂けて感謝している。この度、計画答申案ができたが、これからが大事だと思っている。パブリックコメントについては、今回は参考という形にとどまったが、何らかの形で答えていくような努力を続けていただきたいし、審議会としても答えていかなければと感じている。

(委員)

知的障がい者、発達障がい者の家族の会にて、何十年も活動しているが、まだまだ社会の理解が足りていない。日本の福祉は遅れているとも言われている。

生活の中で、地域とのコミュニケーションを深め、少しでも障がい者という立場を理解してもらえよう発信していきたい。

(委員)

地域福祉計画は、市民が主体の計画で、鳴門市にとって重要な計画です。

地域共生社会の実現に向けて、行政としても重層的な支援体制を整えることが急務だと認識している。今後更に相談支援体制を充実させ、地域づくりに向けた支援や安心して暮らせる環境を、市民の皆様とともにつくっていきたくと考えている。

(委員)

保護司として、更生保護活動のほかに、「社会を明るくする運動」も行っており、罪を犯した方が再び社会の中で生活できることを目指している。偏見をなくして、住みやすくしていくのが大きな目標。

また、鳴門東地区では小学校の児童が、来年1人となる。普通に考えれば、次の年は休校となる。空き家も増え、人にも会わない。神社の総代会もできない状態で、福祉をする前に地域が疲弊している。若い人や、子どもが増えるような施策をしていただきたい。

(委員)

婦人会は地域に根ざした活動を行っているが、高齢化で色々な事が難しくなっている。私の地域では、色々な団体・関係者が集まって定例会を開催し、高齢者への支援等、話し合い、様々な活動に繋げている。高齢化は進んでいるが、可能な限り活動を続けていきたい。

(委員)

地域福祉計画の中では「課題解決を検討していく」や「計画の推進を図っていく」という文言が入っている、それを信じているので、『避難タワー』の設置について、行政としてもよろしく願いたい。

(委員)

計画の基本理念を実現するための具体的な取組が見えにくい。

現在、私の地区で子ども食堂（地域のコミュニティの場）をつくろうとしている。

人のつながりを地域全体に広げたい。それが、計画の理念、基本目標の達成に近づくのではないかと思っている。

(委員)

地域福祉計画において、民生委員の担う役割は大きい。しかし、民生委員の高齢化が進んでいる。今回、私の地区では、19名の民生委員のうち、7名の民生委員の退任希望があったが、5名は再任せざるを得なかった。3年後に後継者が見つからなければ、80歳を超えてくるので、活動を行うのが体力的に厳しくなる。

活動の充実については理解できるが、民生委員の役割が大きなウェイトを占めるのであれば、行政にも後継者探しに関わっていただきたい。

(副委員長)

地域福祉計画は、皆様の意見を反映した良い計画であると思っている。

高齢者等地域の活動団体は、地域の行事のときに話し合うことが大切である。

また日頃から、福祉関係の団体や関係機関等とつながること、地域で助け合うという気持ちが大切である。

(委員長)

まず、計画の推進に関して、行政に頼る時代は終わっている、住民自身が何かをしなければいけないし、手助けをしていくという時代になりつつある。我々自身が動くということが、この計画を推進していくうえで、大事であると感じている。

次に、災害を考えても、平時のつながりをどうするのかを常に考えておくことが大切。

また各団体・機関で高齢化が問題となっているが、「高齢」を理由に次に引き継ぐという時代も終わっている。人生100年時代にシフトしているので、生きている限り、自分の知識やスキルを地域に還元していくのが大人の役割。

最後に、人間に一番ダメなのは孤独です。望まない孤独が何よりも毒。そのため、孤独・孤立をなくす取組を行政含めて進めていただきたい。

(事務局)

今後について、計画の進捗・評価を毎年行っていくことを考えている。具体的な行い方は決まっていなくても、数名の委員で評価委員会という形で評価して頂き、それに加えて行政の者が地域に出向いて、状況等の確認などを行い、PDCAのチェックの部分を行っていきたいと考えている。

閉 会